

## 震災津波伝承施設（仮称）整備の進捗状況

### 1 これまでの主な経緯

年月日	内 容
H26. 5. 15	「震災津波伝承まちづくりプロジェクトチーム」設置（庁内関係室課で構成） 震災津波伝承のあり方や伝承機能を有した拠点施設整備等について検討
H27. 1. 30	「震災津波伝承のあり方～伝承施設の基本的方向～」取りまとめ
H27. 8. 11	「高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」設置（有識者6名で構成）
H27. 9～H28. 2	「平成27年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催（3回） 震災津波伝承施設展示等基本計画について検討
H28. 3～H28. 5	「震災津波伝承施設展示等基本計画（案）」に係る意見募集（パブリック・コメント）
H28. 6. 23	「震災津波伝承施設展示等基本計画」策定
H28. 8～H29. 2	「平成28年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催（2回） 震災津波伝承施設展示等基本設計について検討
H29. 3. 7	「震災津波伝承施設（仮称）展示等基本設計」取りまとめ
H29. 7. 28	「平成29年度 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会」開催 震災津波伝承施設展示等実施設計（骨子）について検討
H29. 12. 28	「震災津波伝承施設（仮称）展示等実施設計」完了 ⇒ 実施設計（抜粋）は別紙のとおり
H30. 3. 2	「震災津波伝承施設（仮称）展示製作業務」契約

### 2 震災津波伝承施設（仮称）展示製作業務の概要

- (1) 契約金額 約 641 百万円（税込）
- (2) 受注者 株式会社乃村工藝社
- (3) 履行期間 平成30年3月～平成31年6月

### 3 今後のスケジュール

2019年に開催予定のラグビーワールドカップ2019™前の開館を目標として整備。

● 展示の基本的な考え方（震災津波伝承施設展示等基本計画より）

1 震災津波伝承施設の整備方針

- ・東日本大震災津波の事実と教訓の世界そして未来への伝承
- ・復興に立ち上がる姿と感謝の発信
- ・三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能を有する施設として整備
- ・屋外の震災遺構等を震災被害の実物展示として活用

2 震災津波伝承施設の使命

- ・多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承
- ・世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩いていく姿を発信

3 展示のテーマ（展示を通じ、問いかけるもの）

**いのちを守り、海と大地と共に生きる**  
 ～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

4 展示の基本方針

東日本大震災津波の事実を  
浮き彫りにする展示

多面的な震災津波災害の事実をありのままに描き出す。

- 津波の事実
- 被害の事実
- 避難生活の事実
- 復興の事実 等



東日本大震災津波の実経験から  
の教訓を伝える展示

東日本大震災津波という未曾有の災害の実経験から得た教訓を伝える。

- 「逃げる」教訓
- 「助ける」教訓
- 「支援する」教訓
- 「復興」の教訓 等



津波災害への対応の歴史を  
学ぶ展示

津波災害と向き合い、備えてきた三陸地域の歴史などを通して、悲劇を繰り返さないために何をすべきかを考える場を創出する。



紙しばい つなみ 作：田畑ヨシ

● ミッション・ステートメント

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

震災津波伝承施設は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

● 展示コンセプト

有識者や語り部等の意見も踏まえ、次のような4点を実現する展示を目指します。

**私たちは「はかり知れない地球・自然災害リスクの高い日本列島」に生きていることへの気づきに導きます**

動き続ける地球。その営みは科学・技術が高度に発達した現在でも計り知れないものです。人類は想像を超える大災害のリスクと常に隣り合わせにあること、東日本大震災津波も地球の営みから見ればその一つに過ぎないことへの気づきに導きます。

また、日本列島は地球上でも特に自然災害のリスクが高く、とりわけ三陸地域は、繰り返し津波に苦しめられてきた宿命の地であることを伝えます。そうした過酷な自然の中で懸命に生をかさね、その中で優れた智恵や技、文化を育んできたことを伝えます。

**津波の脅威と失われた命の重さをしっかりと心に刻みます**

多くの尊い命を奪い去った東日本大震災津波。この悲しみを再び繰り返さないためには、これから生きる人々に、この震災津波がいかに大きなものであったのかを知ってもらうことが重要です。

そのために、展示を具現化するにあたっては、この度の震災津波の脅威の実相と、それを経験した被災した方々の思い、命が失われるということの重さをありのままの事実として訴えかけ、人々の記憶に刻みつける展示を目指します。（ただし、子どもやそうした展示を見たくないという被災者の心情には配慮するものとします。）

**人の意識・行動を変えることで命を守れることを学べる場とします**

本施設が目指すのは、東日本大震災津波の経験から得た教訓を伝えることで未来の自然災害から人々の命を守ることです。地震や津波をコントロールすることはできないけれど、一人ひとりが自然災害に対する意識や行動を変え、備えをすることで、多くの命を守れるということを学べる場とします。

また、この未曾有の震災津波に我々日本人はどう立ち向ったのかを明らかにし、その経験から生まれた数々の教訓を未来の命を守る貴重な智恵として発信し、国内外の多くの人たちと共有できるようにします。

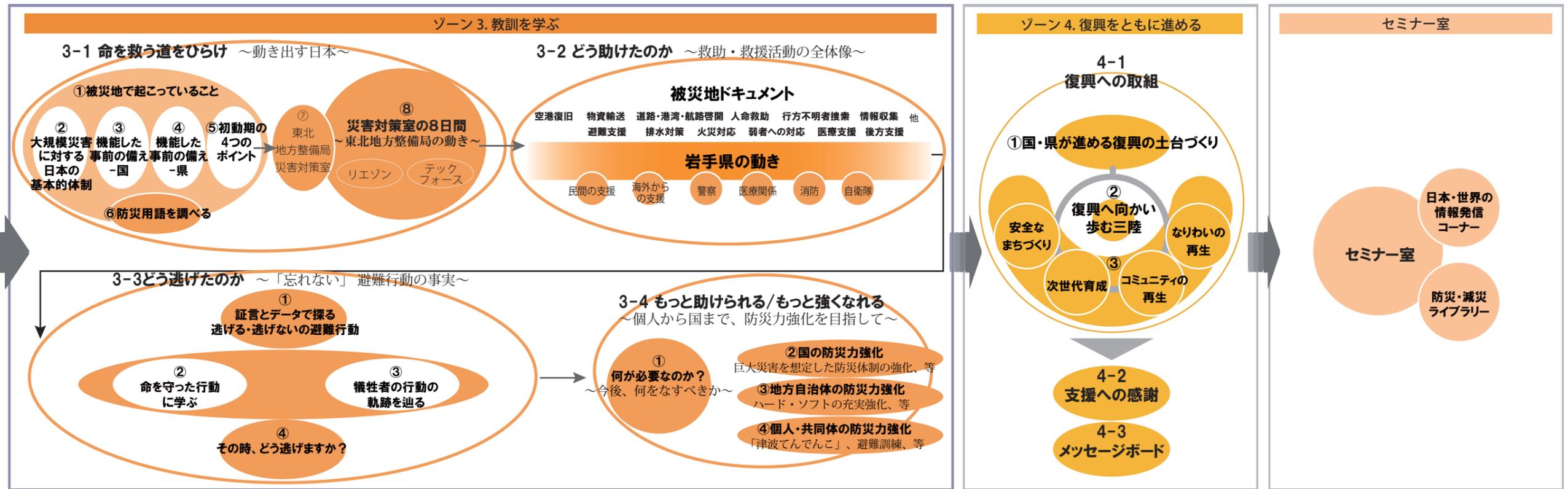
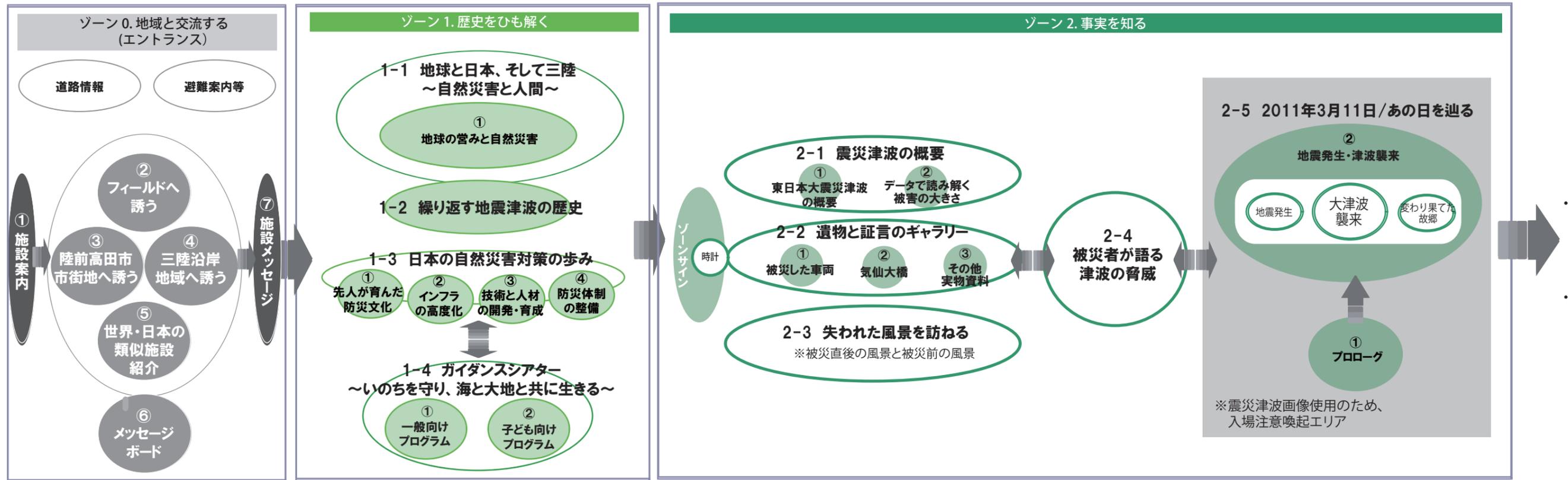
**感謝の心を伝え、想い・智恵が凝縮した復興まちづくりを力強く発信します**

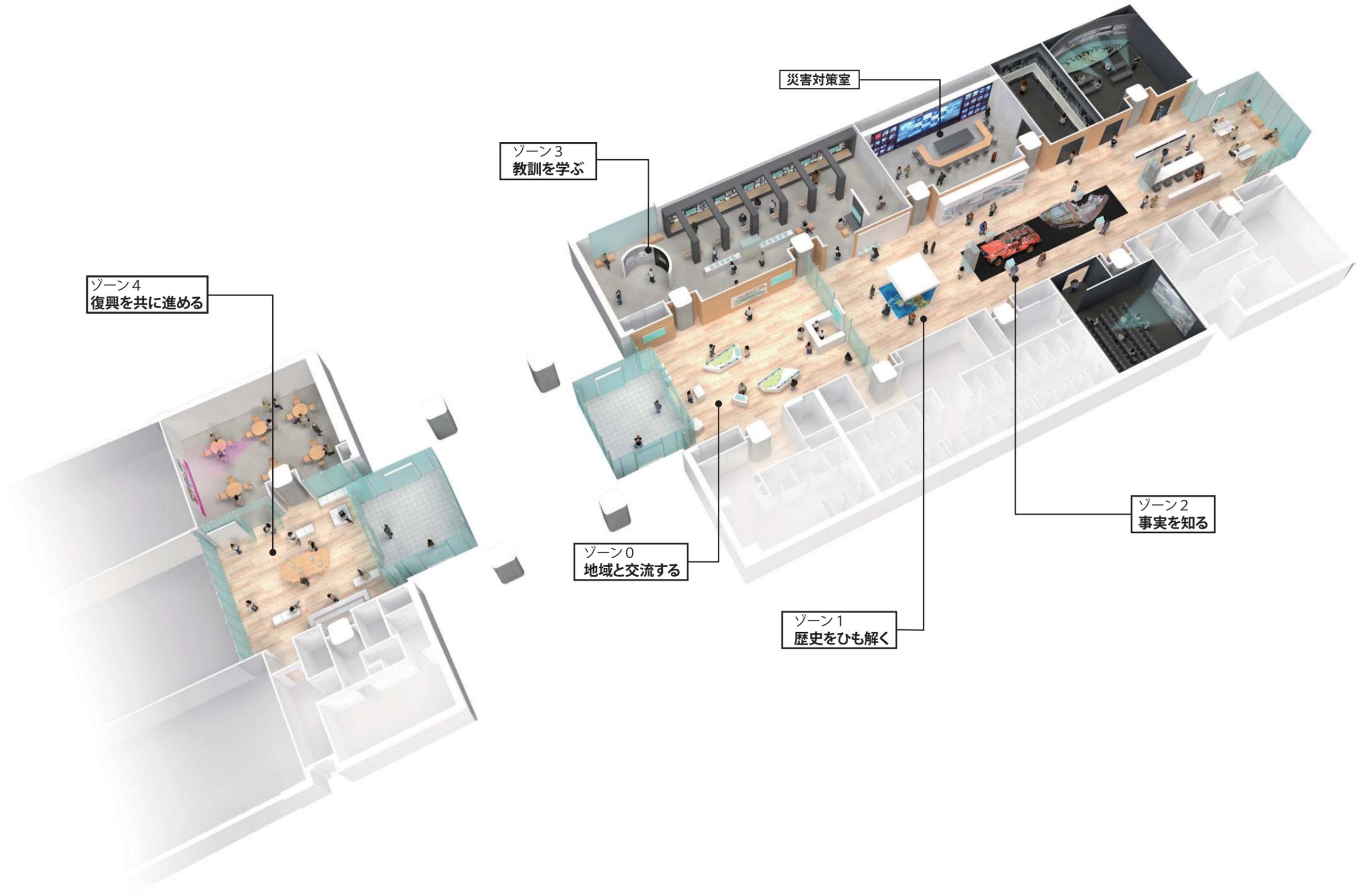
全国・世界からのあたたかい支援に対する感謝の心を伝えるとともに、被災地の人々が願い取組んでいる、今度津波が来ても決して負けない地域づくりを力強く発信します。そこに秘められている復興に向けての夢や期待、あるいは、先端的な考え方や取組、新しい技術などを紹介し、復興まちづくりの生きたミュージアムとして三陸沿岸被災地を紹介します。

被災各地の復興への歩みとともに成長・発展する展示を工夫するなど、訪れた人々が被災地の営みや息づかいを身近に感じられるようにし、応援する心を育みます。

震災津波伝承施設（仮称）展示等実施設計	承認	検印	設計	日付	縮尺	名称	図面番号
				2017.12		展示の基本的な考え方	共009
						種別	図面コード
						展示コンセプト	

展示ストーリー構成





震災津波伝承施設（仮称）展示等実施設計

承認

検印

設計

日付

2017.12

縮尺

名称

展示イメージ（鳥瞰図）

図面番号

共030

種別

図面コード